



グリーンボンド・インパクト・レポート

2017年度

目次

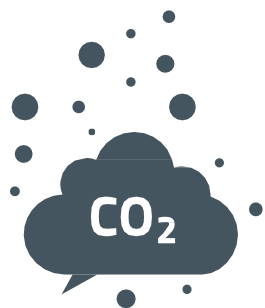
3	2017年度のハイライト
4	副総裁からのごあいさつ
5	IFC気候関連ビジネスの概要
6	IFCグリーンボンド・プログラムの概要
7	IFCグリーンボンドの発行概要
8	グリーンファイナンスへの関与
10	受賞等
11	グリーンビルディングに対するグリーンボンドの着目点
13	IFCグリーンボンド地域別コミットメント
14	IFCグリーンボンドセクター別コミットメント
15	注目プロジェクト: モクバ太陽光発電
16	注目プロジェクト: ブエノスアイレス市
17	2017年度にコミットしたグリーンボンド適格プロジェクト
22	付属資料 A: IFCのグリーンボンドのプロセス
24	付属資料 B: IFCのインパクト・レポートの方針

2017年度のハイライト

温室効果ガス(GHG)排出の予想削減量

224万

トン(CO₂換算)

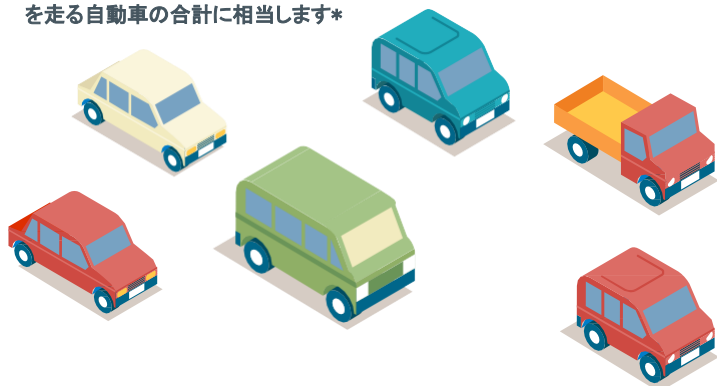


道路を走行する自動車

477,770

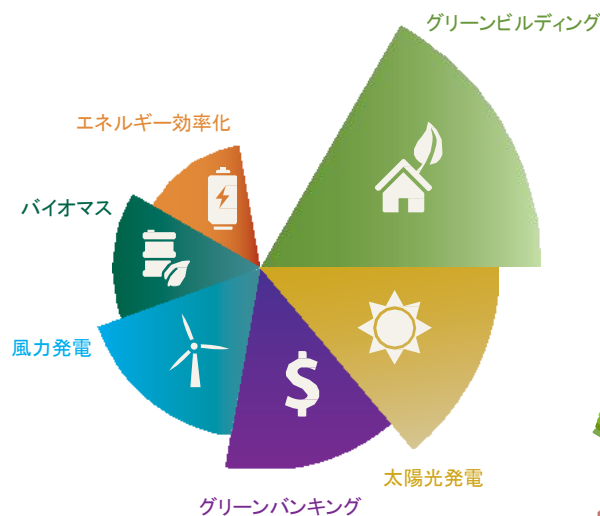
台の削減に相当します

ワシントンDC、ボストン、マサチューセッツ
を走る自動車の合計に相当します*



33

新規プロジェクト



年間約

219万 MWh

の再生可能エネルギーによる発電に貢献

フロリダ州マイアミの住民の年間使用電力を賄うのに
十分な電力量です*



*出典: <http://worldpopulationreview.com/us-cities/>
<http://www.governing.com/gov-data/car-ownership-numbers-of-vehicles-by-city-map.html>

副総裁からのごあいさつ

皆様へ2017年度のIFCグリーンボンド・インパクト・レポートをお届けします。気候変動は既に世界中の様々な地域に影響を及ぼしており、特に最も脆弱な地域が一番大きな打撃を受けています。

こうした激しい自然災害の影響で、年間5,200億ドル相当の消費が失われ、毎年2,600万人もの人々が貧困に陥っています。低炭素で回復力のある経済へ秩序ある転換を行うためには、数兆ドル規模の資金が必要になると想定されています。このことは、気候変動対策投資を拡大する大きな機会をもたらします。世界では、インフラだけで今後15年間で約90兆ドルが必要になり、その大半が開発途上の中所得国であると予測されます。気候変動対策は持続可能なグローバル開発を行う大きな機会です。数兆ドルの潜在的投資に加え、イノベーションを推進し、新たなグリーン産業と雇用を生み出します。2016年11月に発表されたIFCレポートでは、パリで採択された気候変動に関する歴史的なグローバル協定により、現在から2030年までの期間に約23兆ドルの気候変動対策投資の機会が21の新興市場にもたらされると予測しています。

新興市場の民間セクターを支援する、最大の開発金融機関であるIFCは、民間企業と協業することにより、気候変動対策事業の拡大、および金融セクターの環境志向の向上に取り組みました。2005年以降、IFCは自己勘定から183億ドルの長期投融資を供与し、さらに投資家と協調することで気候変動関連プロジェクトへ110億ドルの追加資金を動員してきました。2017年度は、IFCは総額30億ドルを自己勘定から気候関連に投資しました。投資の対象は41カ国、90もの気候関連投資プロジェクトに及びます。さらに、他の投資家から18億ドルの資金を動員しました。2017年度のIFCグリーンボンド・プログラムでは、6カ国の通貨建てで19本のグリーンボンドを公募債、リテール債のフォーマットで発行し、総額約6億5千万ドルを調達しました。2017年度末時点で、IFCのグリーンボンド調達資金が支援するグリーンボンド適格プロジェクトは125件に達しました。これらプロジェクトに対するコミットメント総額は46億ドルで、そのうち28億ドルが既に融資実行されています。IFCの発行済グリーンボンドの残高は約23億ドルです。

近年、グリーンボンドのグローバルな発行市場は急速に拡大し、2016年には総額1,000億ドルを超えました。しかしながら、開発途上国でこのようなボンドを発行した銀行はわずかしがなく、大きなギャップが依然として残っています。IFCは、これらの開発途上国においてグリーンボンドの発行を促進すべく、様々なイニシアチブに取り組んできました。2017年度にIFCは、コロンビアの2つの銀行、Davivienda と Bancolombiaのグリーンボンドの発行を支援しました。Bancolombiaのグリーンボンドは、ラテンアメリカの民間金融機関が発行した初のグリーンボンドです。同年度には、IFCはアムンディと協力し、金融機関をグリーンボンド発行体とする、新興市場向けに特化した最大規模のグリーンボンドファンドの立ち上げに取り組みました。今後も私たちは投資家を呼び込む画期的な商品開発に取り組み、リスクを軽減するツールの開発を続けるほか、グリーンボンド市場において我々の顧客が積極的に活動できるよう支援して行くことをお約束します。

ジンドン・ファ
IFC副総裁兼トレジャラー



IFC気候関連ビジネスの概要

2005年以降、IFCは気候関連プロジェクト、再生可能エネルギー、エネルギー効率化、持続可能な農業、グリーンビルディング、廃棄物、民間セクターの気候変動適応の各分野に約183億ドルの長期投融資を供与しただけでなく、投資家と連携でさらに110億ドルの資金を動員してきました。

2017年度にIFCが自己勘定から行った気候関連分野への長期投融資額は30億ドル近くに上りました。また、18億ドルの中核資金動員を達成したことで、気候変動対策プロジェクトに対する投融資総額は48億ドルに達しました。

また、2017年度には助言業務を通じて、電力、資源効率化、アクセス、官民連携に関連する気候変動関連投融資を6億3,600万ドル超実施しました。

2017年度、IFCは年間670万トン以上の温室効果ガス(GHG)排出削減量に相当する気候関連投融資および助言業務を実施しました。これは道路を走行する自動車140万台分の削減に匹敵します。

5分間のミニ・インタビュー

アルズベータ・クライン
IFC 気候関連ビジネス局長



なぜ、気候変動リスクが重要なのでしょうか？

新興市場におけるビジネスにおいても、そのボトムラインとして気候変動が及ぼす諸リスクを無視することはできません。ますます頻発する厳しい気象事象から、新たな規制の策定や消費者嗜好の変化に至るまで、気候変動により私たちのビジネス手法は根本的に変わりつつあります。

企業や投資家は、以前にも増して気候変動対策ポートフォリオへの移行と投資の機会を模索しています。

民間セクターはどのような役割を果たすのでしょうか？

民間セクターの気候変動対策投資への参加が、数兆ドルの追加投資を必要とする、とりわけ新興市場での気候変動ビジネスの拡大に不可欠であることは論を待ちません。

低炭素事業戦略は環境面で利点があるだけでなく、企業にとって未来の市場でもあります。各国が決定する約束草案 (NDCs) が、21の新興市場経済だけでも23兆ドルの投資機会になるとIFCは推計しています。

気候変動分野への融資におけるIFCの優先事項は何でしょうか？

2017年度を成功裏に終え、IFC は気候変動対策産業に約48億ドルのコミットメントと資金動員を行ない、41の新興市場における気候関連投資拡大を支援しました。これらの市場はすべて将来性がありますが、IFCの経験上、革新的なアプローチでビジネスを拡大し、民間セクターに数十億ドルの資本を呼び込むと考えられるセクターは以下の通りです。

・**気候変動対策農業関連ビジネス**：将来の食糧需要を満たすことは、間違いなく世界で最も重要な気候変動関連の課題の一つです。

・**グリーンビルディング**：世界の温室効果ガス排出量の約3分の1が建物由来であると推計されています。

・**スマートシティ**：2050年までに開発途上国の人口の70%が都市部に居住すると予測されています。そのため、都市環境におけるインフラ需要を持続可能な形で満たす“スマート”シティ建設の機会が生まれます。

・**エネルギー貯蔵**：IFCの新しい研究によると、新興市場におけるエネルギー貯蔵技術は今後10年間で年率40%の成長が見込まれます。これにより、環境、社会および経済面で重要な恩恵をもたらすと見込まれます。

・**クリーンエネルギー**：これには、再生可能エネルギー、エネルギー貯蔵などが含まれます。投資家の再生可能エネルギー市場への参画支援、政府による気候変動関連規制及びPPPの開発への助言、グリッドと結びついた再生可能エネルギーへの融資の促進、近代的なオフグリッド・エネルギー供給サービスへのアクセス向上など、バリューチェーン全体を通じて、IFCは再生可能エネルギーを支援しています。

・**グリーンボンド**：如何にして新規資本提供者を呼び込み、気候変動対策投資を拡大するかが重要な課題です。

IFCグリーンボンド・プログラムの概要

2017年度、IFCは6カ国通貨建てで19本のグリーンボンドを公募債とリテール債のフォーマットで発行し、総額約6億5千万ドルを調達しました。2010年以降のボンドの累積発行額は58億ドル、累積発行数は79本、12カ国の通貨建てで発行しています。

2017年初に、IFCは投資家の需要を満たすべく、発行済グローバルグリーンボンド(10年債)を5億ドル増額発行し、発行総額を12億ドルとしました。この増額発行は30以上の投資家に販売されました。もう一つの注目すべき長期債として、IFC初となるスウェーデン・クローナ建てグリーンボンドを2017年4月に発行しました。同債券は10年債、発行額は8億クローナです。

米国リテール市場向けのIFCインパクトノートプログラムは、同年度を通じグリーン・フォーマット限定で発行されました。これは、発行体の信用力に加えて調達資金のグリーン用途を重要視するようになったリテール投資家からの要望に応えたものです。2017年度のグリーン・インパクトノートの発行総額は2,300万ドルに達しました。

また、IFCは日本のリテール向け売出质市場でも積極的に起債し、同年度中に日本の個人投資家向けに発行したグリーンボンドの総額は2,200万ドルに達しました。

2017年6月30日現在、IFCの発行済グリーンボンドの残高は約23億ドルです。

5分間のミニ・インタビュー

モニシュ・マフルカル
IFC Treasury Market Operations
局長



グリーンボンド・プログラム誕生のきっかけは何でしたか？

気候変動は2005年以降、IFCが最優先に取り組んできた戦略です。これは、気候変動が開発ミッションに与えるリスクが大きいからです。当初IFCは、2010年にニッチな投資家需要を満たす目的でグリーンボンドを発行しました。そして2013年に私たちが史上初の10億ドルのベンチマークを発行する頃には、グリーンボンドはニッチな商品から主要な商品として扱われるようになりました。今年でIFCがグリーンボンド・プログラムを立ち上げから7年になります。

プログラムを立ち上げて以降、グリーンボンド市場への流動性のある債券の供給に加え、我々はグリーンボンド市場へ投資家を呼び込み、教育するためにグリーンボンドという商品を活用してきました。グリーンボンド・プログラムの主要な目的のひとつは、従来の投資家に環境・社会・ガバナンス(ESG)投資への転換を促すこと、すなわち、投資家に馴染みのある形で主要な商品として提供することです。“調達資金の使途”でグリーンボンドはまさにそのような商品になっています。

グリーンボンド・プログラムを立ち上げてから、IFCのアプローチはどのように変化しましたか？

私たちはグリーンボンドに関する専門性を様々な方法で拡充してきました。たとえば、現地投資家が通貨変動リスクを回避できるよう、現地通貨での発行を開始しました。現地通貨の発行には二重の効果があり、投資家が現地市場においてもESGを主要な投資アプローチとして検討することを促すほか、現地資本市場の発展というIFCの目標を達成することができます。

グリーンボンドの発行のみならず、アンカー投資を通してグリーンボンドを支援し、我々の顧客がグリーンボンド市場にアクセスできるよう信用保証を提供するなど、現在IFCはユニークな立場を取っています。最近では、アムンディと共同でグリーン・コーナーストック・ボンドファンドを立ち上げました。このファンドにより、我々の顧客の所属国におけるグリーンボンド市場の開拓に寄与することが見込まれています。

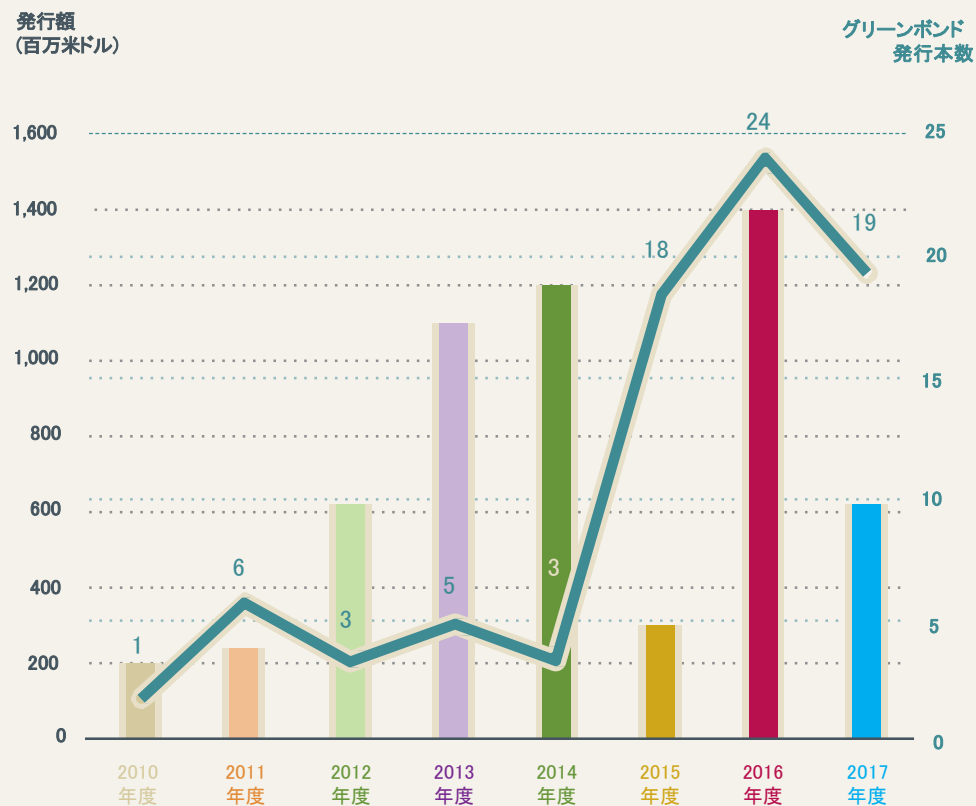
発行体として、グリーンボンド市場にどのような発展を求めますか？

グリーンボンド市場をより健全、多様で透明性のあるものとするためには、以下のような発展が必要です。新たな発行体への市場の拡大、新規通貨による発行、多様な資産プールへのエクスポージャーを投資家に提供可能とする証券化としてのグリーンABSの促進、発行体の信用力に潜在的にリコースすることなく、投資家がプロジェクトのリスクを直接取るようなグリーンプロジェクトボンド等です。

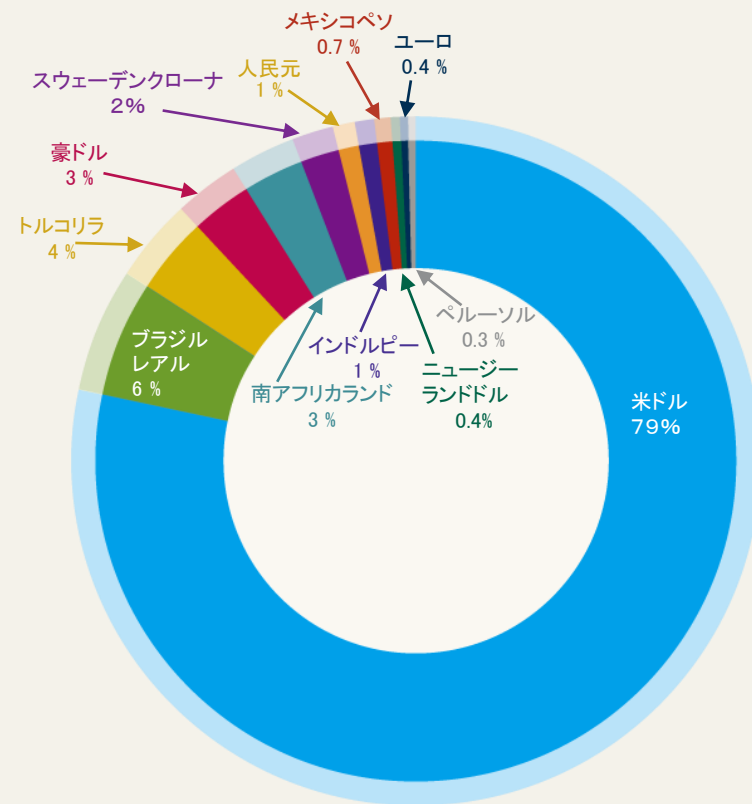
他方で、投資家はグリーンボンド調達資金の使途と報告にさらなる透明性を求めており、透明性の確保が基本となっています。そうした中で、我々は小規模かつ潜在的発行体を排除することなく、透明性を高めながらも様々な方向での市場の成長を促すバランスのとれた努力を続けていきます。

IFCグリーンボンドの発行概要

IFCグリーンボンド年度別発行額



IFCグリーンボンド通貨別累計発行額



グリーンファイナンスへの関与

IFCは、クリーンかつ持続可能な開発を世界中で促進するという目標を掲げ、グリーンファイナンスに関わる金融機関、国際イニシアチブ、基準制定機関及び規制当局と緊密な連携を図っています。

IFCは2017年度、いくつかの主要なイニシアチブを通じて、グリーン債券市場の発展に主導的な役割を果たしてきました。**グリーン債券原則**(GBP)執行委員会(EXCOM)の現行メンバーであるIFCは、2017年6月に公表された透明性と情報開示に関する自主的ガイドラインの改訂版の起草に携わりました。GBPは透明性と説明責任の推進に関する取り組みとして市場からの幅広い支持を得ており、現在149の組織が加盟しています。IFCは新規市場、インパクト・レポート、グリーン・プロジェクトの適格性といった戦略的なトピックを扱うEXCOMの作業部会にも積極的に参加し、ソーシャル債券作業部会の部会長を務めました。ソーシャル債券作業部会は新たに**ソーシャル債券原則**を公表し、この原則はグローバル・キャピタルの“**Most Valuable Innovation for the Green/SRI Bond Market (グリーン/SRI債券市場 最優秀イノベーション)**”を受賞しました。

IFCはグリーンファイナンス市場の拡大に向け、革新的な手法を引き続き展開していきます。グリーン債券・プログラムを通じて、気候変動対策プロジェクトへの民間投資を手助けすることに加え、グリーンファイナンスをグリーン債券の発行体や投資家、リスク低減手段の提供者、最近ではグリーン債券ファンド設立者といった、多角的なアプローチで取り組んでいます。例えばIFCは、ラテンアメリカの商業銀行による初のグリーン債券に単独で投資しており、コロンビア最大の商業銀行Bancolombiaが発行した3,500億コロンビア・ペソの債券にアンカー投資を行いました。また、コロンビアの大手銀行Daviendaが発行した、ラテンアメリカの民間金融機関として最大のグリーン債券にも単独で投資しています。この債券では4,330億コロンビア・ペソの資金が集まりました。グリーン債券市場をさらに拡大するため、IFCはアムンディと共同で、新興市場向けに特化した最大規模のグリーン債券ファンドを立ち上げました。この基金は20億ドルの規模で、現地資本市場の深化と、気候関連投資へのファイナンス拡大を目指します。また、アフリカ、アジア、中東、ラテンアメリカ、東ヨーロッパ、中央アジアの銀行が発行するグリーン債券の購入を目的として立ち上げたこのグリーンコーナーストーン債券ファンドに、IFCは3億2,500万ドルを上限とする投資を実施予定です。アムンディは20億ドルのうち残りの部分を世界中の機関投資家から募集するほか、新興市場の債券を管理するサービスを提供します。2017年度中に IFCが達成したもう一つの成果は初のフォレスト債券発行です。IFCが発行したこの債券は、投資家が利払いに際し、森林クレジットあるいは現金のいずれかを選択可能な、世界初の「グリーンクーポン」債券です。この債券により1億5,200万ドルの資金が集まり、開発途上国における森林破壊の防止に役立てられます。



ICMA(国際資本市場協会), GBP会議 2017



グリーンファイナンスへの関与

IFCはBHP Billitonと共同でこのフォレストボンドを開発し、投資家が利払いとして現金を選択する場合にはBHP Billitonがクレジットを買い取ります。クレジットで得た収益は森林と野生生物の保護に役立てられるほか、コミュニティに多くの恩恵をもたらします。フォレストボンドはEnvironmental Financeの”Sustainable Forestry Deal of the Year (今年の持続可能な森林対策ディール)”を受賞しました。

パリのCOP21で発足した、炭素価格制度リーダーシップ連合(CPLC)に関連する民間セクターの取り組みにもIFCは参加しています。クリーンな未来のための投資を推進する手段として炭素価格制度の気運が世界で高まる中、炭素価格制度の利用を手助けすることで、IFCは主要な顧客による環境リスク評価及び管理をサポートし、新たな投資機会を生み出します。

グリーンファイナンスには未だ様々な課題があります。例えば、様々なアプローチ、定義、データ利用可能性にまたがる連携の欠如や、定量化指標の一貫性のない利用です。

統合的アプローチを実施しなければ、グリーンファイナンスが及ぼす影響を追跡することは難しくなります。2017年4月にIFCは“[Green Finance: A Bottom-up Approach to Track Existing Flows](#) (グリーンファイナンス: 既存の資金フローを追跡するためのボトムアップ・アプローチ)”を公表しました。この報告書はドイツの Gesellschaft für Internationale Zusammenarbeit (GIZ)と共同で作成したものです。同報告書では影響についての調査方法がチャート形式で、プロジェクトごとに求められる具体的な定義と共に紹介されています。



この報告書で、2014年の全シンジケートローンのうち実に82%が何らかグリーン活動へ関わるセクターへの融資だということが判明しました。こうした融資のうち、41%がグリーン不動産、24%がインフラ及び運輸向けでした。金融セクターが提供するグリーンファイナンスの現行の供給を予測することにより、IFCでは幅広い分析が可能となります。政策立案者も、需要とのギャップを埋める対策を国家レベルで明確に講じることができるため、さらなるグリーンファイナンス動員の手助けにもつながります。同報告書では、グリーンボンド市場が定義の利用と追跡において最も進んでおり、他の分野の見本になりうるということも明らかになりました。グリーンファイナンスの追跡が可能になれば、銀行が貸し出す際の資金の追跡が容易かつ正確になり、プロジェクトがグリーンかどうかの判断も一貫した分類で判断することができます。報告書の最後には、連携を強化し、より強力で統合されたグリーンファイナンスセクターに向けた基本ロードマップを構築することを目標に、短期・中期における市場参加者のための重要なアクションが示されています。

この分析は、安定した金融システム実現に向けたアクションプランとその進展を計測する基礎をデザインすることを目的として、国連環境及び世界銀行グループが最近発表した“[Roadmap for a Sustainable Financial System](#) (持続可能な金融システムのためのロードマップ)”の下で提唱された活動を支持しています。

受賞等

IFCが新興市場における気候変動対策投資のために発行したグリーンボンド(10年、7億ドル)は、グローバル・キャピタルから「**Best SRI Bond (最優秀SRI債券)**」を受賞しました。この債券のクーポンは2.125%でしたが、投資家の旺盛な需要に応えるため、5億ドルから増額されました。

GlobalCapital



IFCのフォレストボンドは、Environmental Financeの”Sustainable Forestry Deal of the Year 2017(今年の持続可能な森林対策ディール)”を受賞しました。この債券の一つの特徴は、投資家が利払いについて現金またはカーボנקレジットのいずれかを選択できることです。2016年10月に発行した5年債には発行額を上回る応募があり、ロンドン証券取引所に上場しました。この債券は、今後10年で750億ドル~3,000億ドルの投資を必要とするセクターをサポートするため、市場を有効活用する貴重な実例です。

IFCは、グリーンボンド発行体、引受業者、その他グローバルに活躍する業界関係者の投票で選ばれるEnvironmental Financeが主催するGreen Bonds Awards 2017で“**Best Green Bond Impact Report (最優秀グリーンボンド・インパクト・レポート)**”を受賞しました。



グリーンビルディングに対する グリーンボンドの着目点



グリーンビルディングに対するグリーンボンドの着目点

グリーンボンドは、グリーンビルディング融資の手段としてますます魅力を増えています。世界の温室効果ガス排出量の3分の1が人口増加、都市化及び建物を原因とするものです。IFCは建物の費用削減分野において、共通で利用しやすいグリーン・パフォーマンス基準の推進に協力しています。

現在、グリーン基準に則って設計され認証された建築物はごく少数です。開発業者や利用者也資源にやさしい建物に経済的なメリットがあることを認識し始めたばかりで、グリーン開発を支援する融資は未だありません。一方で、IFCの報告書「**新興市場における気候関連投資の機会**」では、現在から2030年までの間にグリーンビルディングに対して16兆ドルの潜在的投資があると推計されています。IFCは30カ国で、**市場の潜在力に関する詳細分析**を実施しました。さらに大きな市場プログラム形成の一環であるIFCのEDGEグリーンビルディング認証を活用することにより、この潜在力の解析が可能となります。

EDGEは新興市場用に設計されたソフトウェア、基準、およびグリーンビルディング認証システムです。EDGEを使用することで、グリーン建物の建設と認証を迅速かつ簡単に、そして安価に行うことができます。EDGEは、最も費用効果の高いグリーン建築方法を選択するフリーソフト、わずか3つのカテゴリーで占められる20%効率のシンプルなグリーンビルディング基準、そしてグリーンビルディング・プロジェクトに報いる認証システムにより、測定可能なソリューションに対するニーズに応えます。EDGEは「ワンストップ・ショップ」アプローチから、グリーン対応策のコストを見積る金額計算が含まれているという点で、他の認証システムとは異なります。

EDGEは単純かつ強固なアプローチで、グリーンファイナンスへのアクセスのための取引費用を削減します。また、EDGEはすでに以下の観点でグリーンボンド原則をはじめとする諸基準に適合しているため、グリーンボンドによる資金調達に最適です。

1. 要件

EDGEは基準設定機関と提携することで、プロジェクトを確実にグリーンプロジェクト適格要件に適合させます。フリーソフトのEDGEを使うことで、現在進行中のビルディングのグリーン認証を手頃な価格で行うことが可能です。

2. セカンドオピニオン

EDGEは国際的に認められた基準なので、資産の選定に関する第三者の独立した意見を簡略化することができます。

3. 配分プロセス

IFCは金融機関スタッフに対し、EDGEを用いたグリーン融資の手続きに関する研修を実施します。研修を行うことにより、配分プロセスの検証がより簡略化されます。

4. 報告

グリーンボンド発行機関は、各融資プロジェクトにおける環境・社会面の影響を報告する義務を有します。EDGEスタッフは、認証された追跡ダッシュボードからこの情報を簡単に実行することができます。

IFCはインドのPunjab National Bank(担保付非転換社債)やトルコのGuaranti Bank(グリーン住宅ローン向けカバードボンド)との取引など、グリーンビルディング向けグリーンボンドに投資をしてきました。さらに、コロンビアやペルーにおけるグリーンボンド発行にも投資し、このかなりの部分がグリーンビルディングに充当されました。IFCによるグリーンビルディングへの累計融資額は現在30億ドルを超えており(自己勘定によるものおよびシンジケートローンを通じた資金動員を含む)、そのうち6億ドルは他の金融機関を通じて投資されました。

今年度、IFCのEDGEグリーンビルディング・プログラム、グリーンビルディングの実績が飛躍的に伸びました。

1.5m

認証床面積約 150万 m²

2m

200万 m²
追加で認証登録

年間節約量に換算すると

8.9m

エネルギー
890万 kWh

330k

水
330,000 m³

EDGE クライアントの顧客の公共料金負担を軽減します。

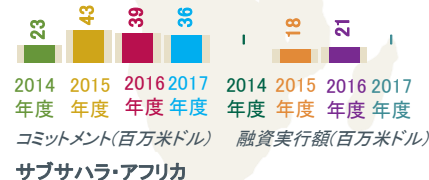
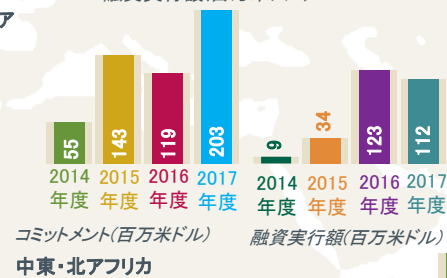
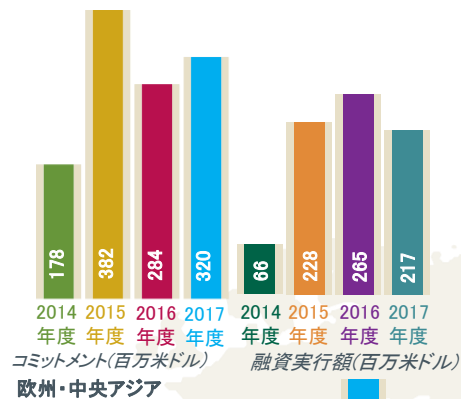
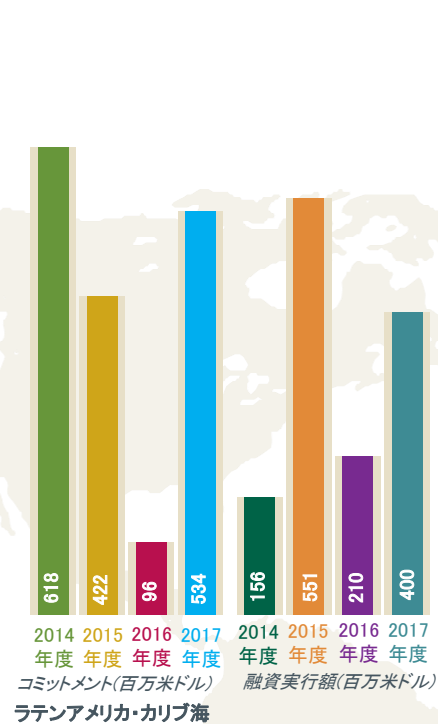


現在、EDGEは130国以上で利用することができます。2017年度はエストニア、ギリシャ、ラトビア、ポーランドが加入しました。

IFCグリーンボンド地域別コミットメント

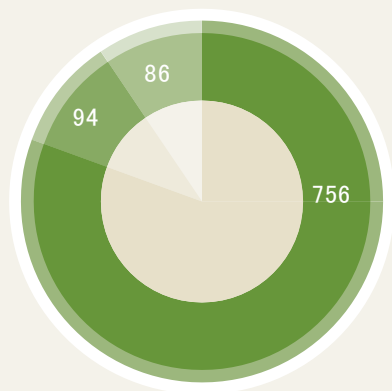
2017年6月30日現在、IFCのグリーンボンド調達資金を充当したグリーンボンド適格プログラムは125件に上りました。これらのプロジェクトへのコミットメント総額は46億ドルで、そのうち28億ドルが既に融資実行されました。現時点での融資未実行額は18億ドルとなります。

合計 (単位: 百万米ドル)	コミットメント	融資実行額
2014年度	936	242
2015年度	1,155	956
2016年度	966	754
2017年度	1,555	899



IFCグリーンボンドセクター別コミットメント

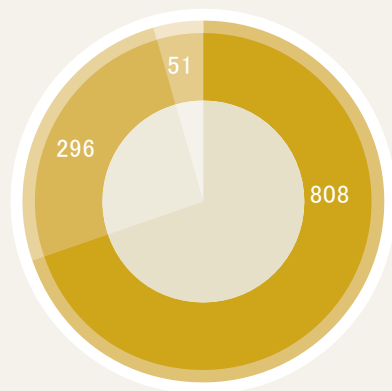
セクター別コミットメント
(単位: 百万米ドル)



2014年度

再生可能エネルギー
エネルギー効率化
特殊気候関連

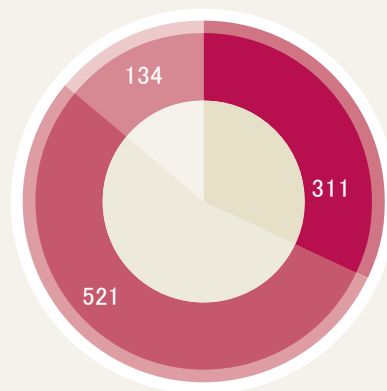
合計 9億3,600万ドル



2015年度

再生可能エネルギー
エネルギー効率化
特殊気候関連

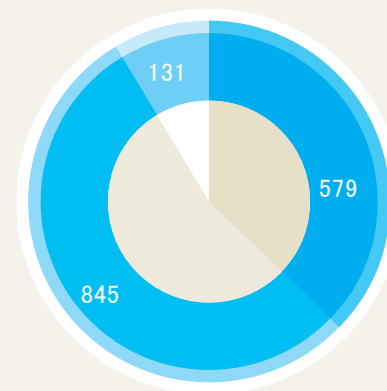
合計 11億5,500万ドル



2016年度

再生可能エネルギー
エネルギー効率化
特殊気候関連

合計 9億6,600万ドル



2017年度

再生可能エネルギー
エネルギー効率化
特殊気候関連

合計 15億5,500万ドル

注目プロジェクト: モクバ太陽光発電

(ID: 36787)



モクバ・プロジェクト

モザンビークは南部アフリカ諸国で最大の187ギガワット(GW)の発電能力を有しており、近隣諸国の中で際立った存在です。発電量のうち約23GWを再生可能エネルギーが占めており、その多くが未開拓の太陽光発電によるものです。

再生可能エネルギーの電力インフラ開発は、アルミニウムやチタニウムなど、天然資源分野への海外直接投資の誘致に貢献してきました。その結果、モザンビークの経済成長は著しく、この10年ほどでGDPの年平均成長率は7.1%に達しました。しかし、国内エネルギー需要の伸び率が年11%に対して、同国の配電網インフラ整備は後れを取っています。モザンビークで電気を利用できる世帯はわずか40%で、地方ではさらに低い27%です。そのうえ、モザンビークにおける電力の70%がカホラバッサ水力発電所から長距離送電システムで送電されるため、頻発する干ばつ、洪水、嵐などの気候事象にも大きく左右されます。実際に、モザンビークで電気を利用できる世帯でも、頻繁に停電を経験しています。

このような課題に対応すべく、ノルウェーに拠点を置く独立系発電事業者Scatec Solarは、モザンビークの電気事業者Electricidade de Mocambique (EdM) およびノルウェーの開発金融機関Nortecと連携し、モザンビークのモクバに同国初となる40.5MW規模の太陽光発電所を設置しました。モクバ太陽光発電プロジェクトには7,600万ドルの費用がかかり、IFCは画期的な5,500万ドルのプロジェクトファイナンスパッケージでこのプロジェクトを支援しています。

IFCの支援には、自己勘定からの融資1,900万ドル、気候関連投資ファンドからの融資1,900万ドル、新興アフリカインフラファンドからのシニジケートローン1,700万ドルが含まれます。さらに本プロジェクトでは、民間インフラ開発グループから700万ドルのバイアビリティ・ギャップ・ファンディングが供与されています。プロジェクトに必要な残り1,400万ドルは、プロジェクト企業Central Solar de Mocuba S.A.の株売却で調達しました。

モクバ太陽光発電は、IFCがモザンビークの再生可能エネルギーセクターに初めて関与した、サブサハラ・アフリカ初の太陽光発電プロジェクトです。このプロジェクトを通じて、同国の最も開発が遅れた地域の農村部に電力を供給できる見通しです。同プロジェクトは、モザンビークの発電融合体を多様化し、既存の長距離送電システムへの依存度を緩和することにより、気候に対する抵抗力と適応力を高めます。化石燃料系の代替エネルギーよりも低価格での発電を可能とするよう定めた「25年間の電力購入契約」に基づき、EdMは当発電所を運営していきます。

今後、さらに厳しい干ばつや洪水が予測されることから、モクバ太陽光発電プロジェクトはモザンビーク政府が掲げる新再生可能エネルギー開発の戦略と緊密に連携しています。この戦略は地方の電化を加速し、そして同国のエネルギー発電ポートフォリオを多様化することで、水力発電への依存度を下げることを目指しています。モクバに代表されるプロジェクトは、経済成長の共有を推進し気候変動への適応力を兼ね備えることにより、モザンビークの再生可能エネルギープロジェクトが商業融資にとって高い実現性を有する魅力ある機会であることを実証しているのです。

モクバの期待される開発インパクト

年間発電量77GWhをモザンビーク電力供給網により、65,000人の利用者へ供給。

年間14,800トンのCO₂排出回避量。

建設・運営を通じ、380もの短期・長期雇用を創出。

モザンビークの水力発電への高い依存度を多様化し、国内の再生可能エネルギー資源から発電することにより、エネルギー安全保障に貢献。

プロジェクトの全期間を通じ、1,940万ドル相当の税收、コンセッション、及びCSRベネフィットを政府にもたらす貢献。

注目プロジェクト: ブエノスアイレス市

(ID: 38533)



Ecobici 自転車シェアリングステーション、
ブエノスアイレス

アルゼンチンは世界で最も都市化の進んだ国の一つで、人口の90%以上が都市部に居住しています。大都市圏の中心部に位置するブエノスアイレス市（CBA）も例外ではなく、国内の人口の30%に相当する1,400万人が生活しています。大都市圏はアルゼンチンのGDPの半分近くを占める国内の経済活動の中核として機能し、営業日には600万人が市内を交通機関を利用して移動します。そのため、CBAの交通機関を適切に管理することは、アルゼンチンに包括的かつ気候変動対策型の経済成長を生み出し、維持するための必須条件になっていました。

公共交通機関のインフラに投資しない限り、自動車利用の一層の増加により、交通渋滞や事故、公害などの悪影響はCBAの低所得労働者層により重く及びます。こうした理由から、CBAは2016～2017年度に4億ドル規模の野心的な交通輸送戦略を発表しました。IFCは5,000万ドルの融資を通じてこの戦略の一部を支援しています。IFCの融資はブエノスアイレスで最も利用者の多いパセオコロンとアレム通りを結ぶ3.5kmのバス高速輸送（BRT）ラインの建設や、フローレスとパシフィコのバス接続ターミナル建設に使用されます。

また、IFCの資金はEcobici自転車シェアリング網に新たに88か所のステーションを設置することや、自転車専用レーン33kmの追加整備に利用されます。外資建ての債務割合の削減を目的としたCBAの財務戦略を支援するため、IFCは今回の融資を現地通貨建てで実施するオプションを提示しています。現地通貨建てで実施することでリファイナンスのリスクが軽減され、同市の将来の資本調達活動の改善につながり、ひいては信用格付の向上にもつながります。

市の交通輸送戦略のための残りの3億5,000万ドルの調達には、米州開発銀行（IDB）からの2億5,250万ドルの金融パッケージを含む他の資金と借入によるものです。このパッケージには総額1億5,250万ドルのIDBグループによる2件の融資、中国工商银行（ICBC）およびフェデレイテッド・インベスターズの1億ドルのシンジケートローンが含まれます。この資金供与は、橋の建設やIlliaハイウェイの移設をはじめとしたCBA大都市圏道路網の改修に充当されています。通勤者のモビリティが向上し移動時間を短縮することで、CBA大都市圏の住民生活の質の向上にも寄与しています。

LAC都市部プラットフォームの広範な助言サポートプログラムと組み合わせることで、CBAにおけるIFCの投資は都市部の指導層の持続可能なガバナンスの促進に役立っています。本サポートの一環として、IFCは技術面でもCBAを支援しており、交通機関プロジェクトの経済的便益の比較や、自転車シェアリング・ステーション拡大の代替資金源の特定、IFCのExcellence in Design for Greater Efficiencies（効率改善のための優れた設計：EDGE）プログラムによるグリーンビルディング基準の促進、公共交通システム内の性暴力対策の策定を支援しています。さらに将来を見据え、廃棄物利用エネルギー発電所の実現性を追究することにより、市の廃棄物管理システムを改善する機会を検討中です。

IFCがアルゼンチンで初めて行った地方自治体への投資でもあるこのブエノスアイレス市プロジェクトは、交通機関システムに対して全体的なアプローチによる企画が可能となり、経済生産性と社会的包摂の促進が予測される一方で、環境持続性と市内全域の安全性を改善することが期待されます。また、包括的かつ安全で、環境に配慮した都市開発におけるグローバル・リーダーを目指す同市にとって、本プロジェクトが同市における民間によるインフラ融資の呼び水となることが期待されています。

ブエノスアイレス市 期待される開発インパクト

CO₂排出回避量として
年間794トン（コロン～
アレム間 BRTより670
トン、バス接続ターミナ
ルより124トン）。ただし、
自転車シェアリング・プ
ログラムによる節約排
出量は対象外。

経済的節約により年間
300万ドル相当を回収、
コロン～アレムBRTシ
ステムにより年間通勤
時間を120万時間削減。

25万人のブエノスアイ
レスの通勤者向けに、
安全で効率的かつ割
安なバス交通機関へ
のアクセスを拡大・改
善。但し自転車利用
者は対象外。

2017年度にコミットしたグリーンボンド適格プロジェクト

以下のインパクト・アセスメント表は、IFC のグリーンボンド調達資金を充当(全部または一部)したプロジェクトによって期待される気候対策の効果を示すものです。この表には2017年度にコミットしたプロジェクトのみが掲載されています。プロジェクトはセクター別にまとめた上で、種類ごとに、再生可能エネルギー(RE)、エネルギー効率化(EE)、もしくは特殊気候関連活動と分類されています。これらの活動は、温室効果ガス(GHG)排出量の削減に寄与しますが、具体的なGHGの算定結果は入手不可です。

グリーンボンド 気候変動対策分野	プロジェクト名	プロジェクト ID	国名	種類	プロジェクト概要	融資契約額	年間発電電力量	年間エネルギー 節減量	再生可能 エネルギープラント (建設または修復) 設備容量	年間温室効果 ガス削減量 (推定)
						百万米ドル	MWh	kWh	MWh	CO ₂ 排出量(トン)
* グリーン ビルディング	Peninsula	33972	タンザニア	EE	国際的ベストプラクティスに準拠し、国際的防災・安全基準に適合したグリーン小売施設とオフィス施設をタンザニアに設計・建設する。	17.5	－	1,540,000	－	444
グリーン ビルディング	UniJaveriana	37307	コロンビア	EE	IFC のEDGEプログラムに準拠し、Pontificia Universidad Javeriana大学のキャンパスを拡張する：学生会館本館、工学、保健、科学学部とその他ビルの新築と配備。	30.0	－	864,000	－	93
グリーン ビルディング	Shangri-La UB 2	37908	モンゴル	EE	モンゴルで、IFCのEDGEプログラムに準拠したホテル、オフィス、複合型マンションなどのグリーンビルディングビジネス施設を設計・建設する。	50.3	－	－	－	1,475
グリーン ビルディング	Elazig Health	38035	トルコ	EE	トルコのエラズーで、IFCのグリーンビルディング基準に沿ったベッド数1,038床の病院を建設する。	87.6	－	9,935,944	－	4,750
グリーン ビルディング	Rede Dor Growth	38202	ブラジル	EE	IFCのグリーンビルディング基準に沿った病院インフラを建設・改装する。	37.4	－	10,600,000	－	756
グリーン ビルディング	Vinte- NuEDGE	38374	メキシコ	EE	IFCのEDGEプログラムに準拠し、メキシコの中低所得住宅セクターに住宅2,000戸を建設する。エネルギー・水の利用を最低20%削減することに加え、このプロジェクトは、当該エリアの長年に渡る住宅不足の問題に対処する。	17.8	－	2,928,000	－	620
グリーン ビルディング	ISCH III El Sal	39042	エルサルバドル	EE	エルサルバドル、ニカラグア、ホンジュラスのショッピングモールを改装・拡張する。本プロジェクトは、水・エネルギーの利用及び資材中のエネルギーを最低20%削減した後、EDGE認証を目標とする。	22.0	－	2,318,000	－	527
グリーン ビルディング	ISCH III Hon	39043	ホンジュラス	EE		10.0	－	2,427,000	－	1,126
グリーン ビルディング	ISCH III Nic	39044	ニカラグア	EE		13.0	－	2,258,000	－	851

* 資源効率化対策(各プロジェクトの環境・社会面のレビュー概要に掲載)に基づき、EDGEソフトウェアを使用してインパクト・データを推計しました。

2017年度にコミットしたグリーンボンド適格プロジェクト






グリーンボンド 気候変動対策分野	プロジェクト名	プロジェクト ID	国名	種類	プロジェクト概要	融資契約額	年間発電電力量	年間エネルギー節減量	再生可能 エネルギープラント (建設または修復) 設備容量	年間温室効果 ガス削減量 (推定)
						百万米ドル	MWh	kWh	MWh	CO ₂ 排出量(トン)
グリーン ビルディング	Grivalia REIC	38285	ギリシャ	EE	IFC のグリーンビルディング基準に準拠し、アテネで既存の商業ビルエネルギー効率を改善する。	53.2	-	-	-	-
グリーン ビルディング	LLP Peru	40154	ペルー	EE	ペルーで倉庫と物流インフラを建設する。顧客は、水、エネルギー、資材の効率を最低20% 改善し、EDGE認証を目標としている。	14.0	-	858,535	-	255
グリーン バンキング	Consorcio RE	36053	チリ	RE	チリのBanco Consorcioによる小規模な再生可能エネルギーのプロジェクトに対する融資を支援する2番目のコミットメント。*	30.0	-	-	-	-
グリーン バンキング	ABC Climate	37960	ブラジル	RE	RE・EE設備の製造、グリーンビルディングなど、中小企業が行う気候変動関連のRE及びEEプロジェクトへの融資についてABC Brasil に与信枠を設定する。ABC Bank が、FI投資に関する気候変動影響評価(CAFI)を用いて、適格な気候変動対策サブプロジェクトの成果を報告・モニタリングする。	42.8	-	-	-	214,748
グリーン バンキング	DCML&T Green Bond	37995	インド	RE	インドの太陽光発電プロジェクト融資向け非転換社債に投資する。	103.6	-	-	-	80,069.4
グリーン バンキング	AlexBank Loan	38160	エジプト	RE and EE	エジプトの中大企業向けの持続可能なエネルギー融資。	25.0	-	-	-	46,590
グリーン バンキング	FinansL EE III	38496	トルコ	RE and EE	温室効果ガス(GHG)排出量及び中小企業のエネルギー費用を削減する、トルコの中小・小規模企業向けの持続可能エネルギー融資。	50.0	-	-	-	106,802
グリーン バンキング	City of BA	38533	アルゼンチン	特殊気候関連	ブエノスアイレス市の低排出公共交通機関インフラ(自転車専用道路、バス高速輸送、地下鉄路線、接続及び歩道の改善)の統合。	50.0	-	-	-	794
グリーン バンキング	DCM Green MCB	38649	トルコ	EE	Türkiye Garanti Bankasi ASが発行した Green Mortgage Covered Bond(担保付グリーン・カバードボンド)への投資。調達資金で、現在トルコで IFCが実施しているグリーンビルディング市場創出プログラムの一環として、同国の住宅向けグリーンローンを支援する。	75.0	-	12,175,200	-	5,771

* 温室効果ガス(GHG)排出量またはエネルギー節約については最初のコミットメントで報告しているため、2番目およびそれ以降のすべてのコミットメントでは予測値を提示していません。

2017年度にコミットしたグリーンボンド適格プロジェクト

	グリーンボンド 気候変動対策分野	プロジェクト名	プロジェクトID	国名	種類	プロジェクト概要	融資契約額	年間発電電力量	年間エネルギー節減量	再生可能 エネルギープラント (建設または修復) 設備容量	年間温室効果 ガス削減量 (推定)
							百万米ドル	MWh	kWh	MWh	CO ₂ 排出量(トン)
\$	グリーン バンキング	DCMBCP Green Bond	38717	モロッコ	RE	Banque Centrale Populaireが発行したグリーンボンドへの投資。 調達資金は、モロッコの適格な再生可能エネルギーインフラ プロジェクト融資に用いられる。	112.1	725,000	-	-	494,557
	グリーン バンキング	DCMBC Green Bond	38731	コロンビア	特殊気候関連	Bancolombia S.A. が発行したコロンビア初のグリーンボンドに投資 し、2030年までに温室効果ガス(GHG)排出量を20%削減するとい う同国の気候変動目標に沿って、再生可能エネルギープロジェクト 及びグリーンビルディングに資金を供与する。IFCは2017年に同国 でグリーンビルディング開発プログラムを立ち上げた。	117.1	-	-	-	75,180
	グリーン バンキング	DCMDav- Green Bond	39057	コロンビア	RE and EE	コロンビアのSegundo MercadoのBanco Davivienda S.A. が発行した、 コロンビアで現地のグリーンボンド市場の創設・発展を支援するグリー ンボンドに投資する。調達資金は、同国の再生可能エネルギー、グ リーンビルディング、エネルギー効率化及びクリーン生産プロジェクト に資金を供与する。	150.0	-	-	-	170,521
	グリーン バンキング	DCMCBC- Green DPR	39811	スリランカ	RE and EE	Commercial Bank of Ceylon PLCを支援し、スリランカの中小企業が 行うエネルギー効率化プロジェクトへの融資アクセスを拡大する。	100.0	-	-	-	165,040
🌿	バイオマス	Thomas Lloyd RE	34754	フィリピン	RE	フィリピンの3カ所で、総発電量70MWのバイオマス発電所の開発・ 運営を行なう。間欠負荷及びベース負荷の発電所を共同設置する ことで、グリッドの安定に寄与する。	63.9	429,240	-	70	181,569
♻️	リサイクル	Assan-VII	37550	トルコ	特殊気候関連	工場全体の整備・生産効率の向上などを含め、廃材再生工場の取 得、既存のリサイクル炉2基の近代化、炉・生産ラインの新設を行う。 この投資により、生産コストの削減、金属くずの再利用化、エネ ルギー・水の消費量削減を行う。	12.8	-	-	-	-
🔋	エネルギー 効率化	Pilkington IV	38822	世界	EE	製造工程のエネルギー効率の改善に向けた研究開発費への資 金供与。環境にやさしい製品の増産、最近の冷修への融資を行 う。これにより、ガラス炉で消費するエネルギーの約20%削減が 期待されている。	24.2	-	266,990	-	45,042

2017年度にコミットしたグリーンボンド適格プロジェクト

	グリーンボンド 気候変動対策分野	プロジェクト名	プロジェクトID	国名	種類	プロジェクト概要	融資契約額	年間発電電力量	年間エネルギー節減量	再生可能 エネルギープラント (建設または修復) 設備容量	年間温室効果 ガス削減量 (推定)
							百万米ドル	MWh	kWh	MWh	CO ₂ 排出量(トン)
	風力発電	Alibunar WPP	32752	セルビア	RE	セルビアに42MWの風力発電所を建設する。石炭火力発電への依存度が極めて高い同国で初の風力発電の1つ。本プロジェクトにより、再生可能エネルギー容量が拡大し、火力発電所から炭素を減らし、汚染を削減することが見込まれる。	17.3	116,900	-	42	77,240
	風力発電	Envision	36094	中国	RE	風力発電プロジェクトの調達、組立、現地運転、運営など、風力発電業界に携わる同社の拡張を支援する。	50.0	-	-	-	-
	風力発電	Tricon BostonWind	38229	パキスタン	RE	パキスタンで150MWの風力発電所を建設、運営、整備する。	66.0	522,800	-	147.9	313,450
	太陽光発電	Mocuba Solar	36787	モザンビーク	RE	ザンベジア州モクバに太陽光発電所を設計、建設、運営する。この発電所は、適応・緩和の両面で利点を有する。	18.8	77,000	-	40.5	14,748
	太陽光発電	Chint NewEnergy	38815	中国	RE	中国を拠点に太陽光発電の製造及び太陽光発電に携わる太陽光発電ソリューション提供企業の拡大を支援し、中国国外の新興市場における同社の太陽光発電開発を可能とする(南南投資)。	40.0	125,108	-	165	56,129
	太陽光発電	FRV Solar India	39151	インド	RE	FRV Andhra Pradesh Solar Farm I Private Limited 及び FRV India Solar Park II Private Limited が建設した100 MWac/136 MWdcの太陽光発電所への投資。本件は、IFCIによる世界初のインフラ部門における‘グリーン・プロジェクトボンド’であり、それぞれ50MWの発電量。	14.4	95,500	113,652	50	90,731
	太陽光発電	FRV Solar Park	40186	インド	RE		14.4	95,500	113,652	50	90,731
	交通機関	Nibulon CL	39155	ウクライナ	特殊気候	ウクライナ最大規模の穀物・油糧種子企業の1つを拡大し、農家に近代的貯蔵インフラへのアクセスを提供し、低排出輸送を使用することにより、農家と最終市場を結びつけることに役立てる。	24.0	-	-	-	-
Total							1,555	2,187,048	46,398,973	565	2,240,609

付属資料



IFCのグリーンボンドのプロセス

IFCのグリーンボンドプログラムはグリーンボンド原則(GBP)を遵守し、ベスト・マーケット・プラクティスに即して運用されています。

調達資金の用途

IFCのグリーンボンド調達資金は、気候関連プロジェクトへの融資業務(適格プロジェクト)に関連する特別サブポートフォリオに割り当てられます。適格プロジェクトは、IFCの気候関連融資ポートフォリオの中から選定されます。このポートフォリオは、IFCの「気候関連活動のための定義と基準」に適合したプロジェクトで構成されています。

グリーンボンド調達資金は、プロジェクトの融資部分のみに充当されます(エクイティ投資と保証は対象外)。適格プロジェクトへの融資が実行されるとサブポートフォリオから引き落とされます。

グリーンボンド適格プロジェクトには以下のような分野が含まれます。

エネルギー効率化(EE):
製品やサービスの生産単位当たりのエネルギー消費削減に役立つ設備、システム、サービスへの投資。これには、廃熱回収システムの設置、コージェネレーション、建物用断熱材、送配電エネルギー損失の削減等が含まれます。

再生可能エネルギー(RE): 再生可能資源からのエネルギーの生産利用を可能にする設備やシステム、サービスへの投資。これには、風力、水力、太陽光、地熱等が含まれます。

資源の効率化:
製造資源(エネルギー、水、原料)から販売可能生産物への変換効率を高めるよう、産業プロセスやサービス、製品の改良に向けた投資。これには、資源調達先における影響緩和等が含まれます。

環境負荷を低減する生産技術:
エネルギーの効率化や再生可能エネルギー、環境負荷を低減する生産に使用される部品生産への投資。これには、太陽光発電所の建設、タービンの製造、建物断熱材の開発等が含まれます。

金融仲介機関:
金融仲介機関への融資。ただし、IFCからの融資が、IFCのグリーンボンド適格要件を満たした気候変動対策プロジェクトにオン・レンディング(転貸)されることを必要条件としています。

持続可能な林業

評価と選定

グリーンボンド適格要件に適合することはもちろん、IFCの融資を受けるプロジェクトはすべてIFCの環境・社会問題のためのパフォーマンス基準及びIFCのコーポレートガバナンス枠組みに準拠し、いずれのプロジェクトも厳格なデューデリジェンスの手続きを経ています。

IFCのプロジェクト評価及び選定要件はオスロ大学の国際気候・環境研究センター(CICERO)のレビューを受けています。CICEROのセカンドオピニオンの内容はIFCのウェブサイトでご覧いただけます。



IFCのグリーンボンドのプロセス

調達資金の管理

IFCのグリーンボンド調達資金はすべて指定されたグリーン現金勘定に移され、適格プロジェクトへの融資実行までの間、流動性に関するIFCの保守的な方針に則って運用されます。適格プロジェクトへの融資実行依頼は、IFCの既定方針と手続きに則って処理され、プロジェクトの進捗状況などによって一定の時間をかけて行われることがよくあります。

いくつかのケースでは、グリーンボンドが支援するプロジェクトの気候関連の要素が、より大きな投資の一部であることがあります。こうした場合は、グリーンボンド・ポートフォリオはプロジェクトの適格部分のみに融資します。

被投資会社には、プロジェクト活動と全投資機関を通じたパフォーマンスに関する定期報告が義務付けられ、こうした報告を元にプロジェクトのモニタリングが行われています。

報告

IFCグリーンボンド・インパクト・レポートは、「グリーンボンド・インパクト・レポートの共通枠組み策定に向けた取り組み（“Working towards a harmonized framework for Green Bond impact reporting”）」に従って作成されています。これは、透明性を高めることでグリーンボンド市場のインテグリティを確保することを目的として策定されているものです。

本報告書では、グリーンボンド調達資金が充当されたプロジェクトのリストを掲載しており、さらに各プロジェクトの概要、融資実行額、期待される環境へのインパクトについても、それぞれの守秘義務を勘案したうえで掲載しています。なお、報告書の対象となるのは、グリーンボンドの適格プロジェクトのみです。IFCの気候関連ビジネスの詳細については、www.ifc.org/climatebusinessをご参照ください。



インパクト・レポートの方針

IFC情報アクセスに関する方針

情報アクセスに関する方針は IFCの持続可能性枠組みの礎であり、透明性を高めることに向けたIFCのコミットメントを明確に表現したものです。

私たちは投資資及びクライアント、パートナー、ステークホルダーへの助言サービス活動に関する情報を正確かつ適時に提供するよう努めています。プロジェクト、環境・社会への影響、そして期待される開発効果に関する情報については、理事会での検討に先行して公開しています。

このコミットメントはグリーンボンドプログラム対象のプロジェクトにも適用されます。

インパクト指標

本報告書は、IFCを含む国際開発金融機関の作業部会が作成した**インパクト・レポートの共通枠組み (Harmonized Framework for Impact Reporting)** に従い、グリーンボンドプログラムのプロジェクトに関して、以下の4つのコア指標に基づいて報告しています。

1. 年間エネルギー節減量 Annual energy savings
2. 年間温室効果ガス (GHG) 排出削減量・排出回避量
3. 再生可能エネルギー年間発電電力量
4. 再生可能エネルギープラント(建設または修復) 設備容量

インパクト指標の解釈

インパクトは気指標はプロジェクトレベルで追跡され、IFCの拠出額に応じた按分はされていません。特殊気候変動対策プロジェクト候変動の緩和に寄与するプロジェクトですが、その影響評価に関する合意された算出方法はありません。金融仲介機関 (FI) への投資は、IFCが直接融資できない中小企業等、より小規模な顧客による気候変動対策プロジェクトへの融資を可能にするものです。IFCはパートナーの金融仲介機関が自らの投資ポートフォリオの気候変動に対するインパクトを評価することの重要性を鑑み、ウェブベースのアプリケーション「FI投資に関する気候変動影響評価 (CAFI)」を開発しました。CAFIにより、金融仲介機関顧客によるエネルギー効率化、再生可能エネルギー、気候変動適応策、そして特殊気候の各分野への投資結果の監視が可能となりました。¹

IFCの温室効果ガス (GHG) 排出量の算定方法と気候関連の定義と基準については、IFCの気候関連ビジネスのサイトをご覧ください。²

インパクト・アセスメントの表は4つのコア指標の定量化を可能にしたものですが、報告されたデータには限界があると認識していただくことが重要です。結果を適切に解釈するための主な留意点は以下の通りです。

効果の範囲: 報告書はプロジェクト評価時点における事前評価であり、主にプロジェクトの直接的な効果に基づいています。

不確実性: インパクト指標の予測における重要な留意点は、指標が多くの仮定に基づくことが多いという点です。技術者は、現時点で得られる情報に基づいて合理的と思われる堅実かつ保守的な仮定を目指しますが、プロジェクトの実際の環境へのインパクトは当初の見通しから外れる可能性があります。一般に、行動変化やベースライン (基準値) 条件の変化は、見通しからの逸脱を生じる要因になり得ます。

比較可能性: プロジェクトやセクター、またはポートフォリオ全体を比較する際には、基準値 (および基準年数) と算出方法に大きな違いがある可能性があるため、注意が必要です。さらに、各国で費用構造も異なるため、費用対効果の算出 (適格プロジェクトへの投資額単位当たりの効果) をする際に、規模の経済性に限界のある比較的小さな国に不利に働き、各国に即した状況を考慮しない結果になる可能性があります。

不作為: プロジェクトはインパクト・アセスメントの表に掲げた指標より幅広い指標で影響がある可能性があり、重要な開発効果が他にあるかもしれません。さらに、採用されたコア指標が適用できないか、データがないプロジェクトもあります。

IFCは時間とともに報告書のための算出方法の一貫性と利用可能性を改善する努力をしていますが、気候変動対策プロジェクトは関連するセクターとサブセクターが非常に多岐に及んでいるため、報告のための算出方法の共通化には困難が伴っています。

¹ <http://www.ifc.org/cafi> をご参照ください。

² http://www.ifc.org/wps/wcm/connect/Topics_Ext_Content/IFC_External_Corporate_Site/CB_Home/Measuring+Reporting/

免責条項

本報告書は情報提供のみを目的として作成され、本報告書に含まれる情報は要約されたもの、または不完全なものである場合があります。IFCは、本報告書に含まれる情報の正確性や完全性に関して、いかなる保証および表明も行うものではありません。また、IFCはこれらの情報を更新する義務を一切負いません。

本報告書は目論見書ではなく、IFCが発行するいかなる債券についても評価基準を提供するものではありません。また、本報告書内に記述のあるいかなる商品やサービスについて予約または購入を勧誘または提供するものではありません。いかなる状況においても、IFCまたはその関係機関は、本報告書の情報の使用に起因するいかなる損失、損害、負債、費用に対しても責任を負いません。これには直接的損害、間接的損害、特別損害、派生的損害を含み、それらに限らず、たとえそのような損害の可能性についてIFCが報告を受けていた場合を含め、いかなる状況においても、IFC及びIFCの関係機関は責任を負いません。IFCに関するより詳しい情報は、IFCのウェブサイトwww.ifc.org/investorsより、最新版「インフォメーション・ステートメント」、財務諸表、その他関連情報を参照してください。

本報告書はIFCのClimate Business及びTreasury Market Operations担当部署が作成しました。

作成者は、Esohe Denise Odaro、Berit Lindholdt-Lauridsen、Zauresh Kezheneva、Olga Khlebinskaya、Francisco Avendano Ugaz、Maria Antonia Panan、Rusmir Music、Sihui Yan、Philip Neil Killeen です。

校閲者は、Sona Panajyan、Emma-Kate Symons です。

IFC Investor Relations International
Finance Corporation 2121 Pennsylvania
Avenue NW Washington, DC 20433

Email: investors@ifc.org
Twitter @IFC_Investors

ifc.org/investors

2017年10月



Creating Markets, Creating Opportunities